

市会議員さん、銚子市立病院をつぶさないで！ 署名して届けよう、私たちの強い思い

平成20年9月、私たち銚子市民が長年頼りにしてきた銚子市立総合病院が突然閉鎖され、やがて、市民の怒りが爆発、銚子市政始まって以来の市長リコールが成立しました。

平成22年5月に再開した新しい銚子市立病院は、専門家に「ゼロ」からよりも厳しい「マイナスからの出発」だと言われました。いま、銚子市立病院は、規模の大小、立地の大都市・地方都市にかかわらず日本中の病院が苦闘している医師不足の問題に対処しながら、奇跡的に、改善の道を一步一步着実に歩んでいます。

にもかかわらず、銚子市議会は、10月17日、市立病院の赤字を補填する補正予算を否決しました。病院にとっては、いきなり命綱を切断されたのも同然です。

そして、11月初旬、白濱理事長（病院長）ら市立病院側が、新聞記者会見及び『銚子市立病院から銚子市民の皆様へのご報告』の新聞折り込みによる私たち市民への強い直接表明に踏み切りました。これは、市立病院側が、度重なる市議会の財政支援否決を悩みに悩み、やむを得ず取った行動だと思います。

『報告』では、医療環境の厳しさや改善進む市立病院の現況を説明した後で、「以上のような現状を踏まえ、市民の皆様にお聞きします。現在の銚子市立病院を赤字だからと言う理由で廃院にすることに賛成されますか？ 廃院に持ち込もうとする市議会の議決を支持されますか？ 日本全体を見回して、公立病院をネタにこのような政争をしている都市は銚子市以外には聞いたことがありません。」と市民に問いかけ、最後に、これからも質の高い医療サービスを提供することに専念していくとして、「銚子市立病院を守るのは、銚子市民の皆様です。」と声を振り絞って訴えています。

私たち銚子市民は、本来、よい医療をすることに専念していただくべき医師や看護師に、このようなことをさせて黙っていてよいのでしょうか。

さらに、近隣の医療連携先として期待されていた旭市や神栖市の中核的病院ですら、例外なく医師不足の荒波が押し寄せてきている昨今、銚子市民の命の砦を守り切れるかどうかは、いまが正念場だと思います。

そこで、今回、市立病院の存続に賛同して下さる市民の皆様の署名を広く集め、銚子市長や銚子市議会、とくに、お金を止めれば病院がつぶれることをわかっていながら、代案を同時に示すことなしに、何度も銚子市による財政支援に反対し続ける多数派の市会議員に対し、市立病院存続を切望する私たち市民の強い「思い」を届けようではありませんか。

銚子市立病院の存続を願う会 代表 加瀬博一 銚子市陣屋町3-32（事務所）